

○吉村善明議長 休憩を解いて引き続き一般質問を行います。

次に、7番神山聡議員。

（7番 神山聡議員 登壇）

313○7番 神山聡議員 では、議長の許可を得て一般質問を行います。今回は地域公共交通及び市内バス路線の廃止案及び再編案について、一般質問を行います。

現在、日本の地方都市では交通インフラ弱体化が急増しており、交通難民と言われる住民が増えています。これは運転者不足、自家用車の利用率が高いこと、需要の縮小や事業経営の悪化などが要因に挙げられます。こうした状況から、国では地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正されました。この改正を踏まえ、生駒市でも令和3年3月に生駒市地域公共交通計画を策定しており、市民が日常生活に必要な活動を支障なく行えるように計画を進めていただいています。そんな中、令和4年3月23日に奈良交通から生駒市長宛てで、現在の生駒市内の路線バスのうち赤字に陥っている市内の5路線について再編が急務であるとして、協議の申入れがありました。路線バスは市内公共交通の骨格となる重要な交通手段です。交通の利便性がよくない古くからあるまちや、坂道が多く左右を山に囲まれている生駒市の地形の中で通勤や通学や買物等に利用できる路線バスの存在は非常に大きく、特に運転をしないご高齢の方々にとっては日常生活に支障を及ぼすような路線バスの廃止や再編などは絶対にあってははいけません。

以上の背景を踏まえて、以下に質問いたします。

最初の質問については、先週の梶井議員への答弁でお聞きしました。その答弁を踏まえて質問をさせていただきますので、この質問の答弁は結構です。

次の質問ですが、バス路線の廃止や再編は過疎地域に限らず、県内全域で発生する可能性があります。生駒市は奈良県との連携を深め、路線バス等の現況を把握し、長期的な視点に立った地域公共交通の維持、確保の在り方を検討し、赤字路線の改善を目指し、国や奈良県の補助を受けながら路線バスを存続させる必要があります。この点、奈良県や国の動向や支援等について教えてください。

以上で登壇しての質問を終え、次の質問からは自席にて行います。

314○吉村善明議長 米田建設部長。

（米田尚起建設部長 登壇）

315○米田尚起建設部長 それでは、神山議員のご質問、地域公共交通及び市内路線バス5路線に対する廃止案及び再編案についてお答えいたします。

それでは、2点目のご質問、バス路線の廃止や再編は過疎地域に限らず、県内全域で発生する可能性があります。生駒市としては奈良県と公共交通の維持継続のための連携を深め、路線バス等の現況を把握し、長期的な視点に立った地域公共交通の維持、確保の在り方を検討し、赤字路線の改善を目指し、国や奈良県の補助を受けながら路線バスを存続させる必要があります。この点、奈良県や国の動向や支援等について教えてくださいについてですが、奈良県においては昨年度、移動ニーズに応じた交通サービスの実現を目指す奈良県地域交通改善協議会で公共交通施策

を実施するに当たって、基本的な方針及び総合的かつ計画的に講ずべき施策を定めた奈良県公共交通基本計画が改定され、県内公共交通の維持、充実に向けた取組として、公共交通とまちづくり等の検討プロセスの強化、多面的評価方法の導入、地域の多様な輸送資源を活用した公共交通ネットワークの充実等、推進施策が挙げられました。また、今年度においては計画に基づき、具体的な取組となる各エリアの公共交通とまちづくりのデッキンを改定し、地域特性に応じた多様な交通サービスの組合せや移動環境の向上、利用促進などの具体的な取組を定めた地域公共交通網形成計画を改定する予定と聞いております。また、国においては現在、地域公共交通確保維持改善事業において、生活交通確保に向けて市町村をまたぐ広域バス路線である高の原高山線及び富雄庄田線、また地域の実状に応じた最適な生活交通ネットワークを確保、維持するためのコミュニティバス西畑線について、それぞれ補助を受けております。また、最近の報道等によりますと、国の諮問機関では赤字が続くローカル線なども含めた地域の公共交通を維持するために新制度の具体化に向けた議論が着手されたとの情報や、令和5年度概算要求では地域交通の運行確保及び再構築に向けた支援を事項要求することなどの情報を得ております。

以上、ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

316○吉村善明議長 神山議員。

317○7番 神山聡議員 今回のバス路線の再編案、特に富雄庄田線や高の原高山線、生駒ニュータウン線などのバス路線の廃止案については市民生活に多大な影響を及ぼし、日常生活に必要な活動を行うことが困難となることを考えると、とても容認することはできません。特定地域の市民の足を奪わないために何としても路線を維持する方法を考えていく必要があります。この考え方を前提に質問を続けさせていただきます。

地域公共交通の骨格となる市内のバス路線の廃止を含む再編については、市民の日常生活に大きな影響を及ぼします。我々議員はその情報を市民よりも先に把握しておき、市民から相談を受けた場合にはきちんと正確な情報と進捗状況を説明する責任があります。今回の案件について、市から議会へ報告がなかったのは、議会や議員へ報告するほどの案件でもない判断していたということでしょうか。

318○吉村善明議長 米田部長。

319○米田尚起建設部長 今回情報が錯綜してしまい、ご迷惑をかけたことは申し訳ないと思っております。今回奈良交通からの市内路線バスネットワーク維持に向けた協議の申入れで示された路線廃止案及び再編案は、奈良交通からの一方的な提案であり、決して受入れ容認できるものではなく、市として決定した段階ではないことから議会には報告していなかったということになります。

320○吉村善明議長 神山議員。

321○7番 神山聡議員 6月1回目の協議会で自治会役員への報告を決めて、9月の2回目の協議会でアンケートの配布も決定して、これらが実施されれば当然私たち議員に市民から問合せがあります。そのとき議員が再編について情報を持っていなければ、市民は議会にも行政にも不信感を抱き、置かれた状況に不安になることは想像に難くないはずです。市は議会や議員に報告すべき案件とそうでない案件はどのように判断をしているのか、教えていただけますか。

322○吉村善明議長 米田部長。

323○米田尚起建設部長 生駒市の市行政に係る重要な計画の議決等に関する条例に基づき、市役所に係る重要な計画の策定、変更又は廃止をしようとするときは議会に報告する必要があると認識しております。

324○吉村善明議長 神山議員。

325○7番 神山聡議員 市がとどき私たち議員に、市民の理解が得られるように議員からも説明をお願いしますとか、協力してくださいというような話があるんですけども、協力をしようにも情報がなければ、その協力をしようもありません。今回のような市民が不安になり、混乱するような案件があった場合は議会に情報を伝えていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

326○吉村善明議長 米田部長。

327○米田尚起建設部長 今後とも、案件ごとに適切に対応していきたいと考えております。

328○吉村善明議長 神山議員。

329○7番 神山聡議員 先ほど市行政に係る計画の策定、変更又は廃止をしようとするときは議会に報告しなければならない、そういう認識をお持ちです。地域公共交通計画の策定時に赤字のバス路線についての情報がなく、計画の課題の変更が必要である今回の案件についてはやはり報告が必要であったと私は思います。どうすれば市民に正確な情報が伝わるのか、市民が不安にならないかを考慮して、今後は議会に情報提供してもらえるようにくれぐれもお願いしておきます。先週の答弁では、具体的な再編案を知ったのは9月だったという答弁がありましたが、これは協議会の委員が再編案を認識した時期ですよ。事務局が市内のバス路線5路線の再編や廃止を奈良交通が検討していると認識したのは令和4年3月23日ということで間違いはないでしょうか。

330○吉村善明議長 米田部長。

331○米田尚起建設部長 先週の答弁で言いましたとおり、活性化協議会で奈良交通が再編案を説明されたのは9月の協議会で間違いございません。それと3月23日の申入れでは、市に対して市内バスネットワークが通勤、通学需要の縮小などで危機的な状況にあり、大幅な赤字に陥っている市内5路線は現行の仕組み及び運行計画での維持は極めて困難である。持続可能性を念頭に運行計画を提案するので検討をしてほしいとのことでありました。

332○吉村善明議長 神山議員。

333○7番 神山聡議員 では、その具体的な再編案を事務局が知ったのはいつになるのでしょうか。

334○吉村善明議長 米田部長。

335○米田尚起建設部長 その後、4月末頃から路線ごとの協議が始まっております。

336○吉村善明議長 神山議員。

337○7番 神山聡議員 それで市のホームページの方に公共交通事業者への財政支援と奈良交通によるバス廃止見直し提案に対する調整の進捗が掲載されています。これは、誰がいつどこで奈良交通と話したことが掲載されているのでしょうか。

338○吉村善明議長 米田部長。

339○米田尚起建設部長 まず、5月に私も含めました副市長と奈良交通役員との話し合いが行われました。そのときに現状維持についての強い申入れを行いました。また、10月と11月の2回、

同じく副市長と私と奈良交通の役員との話し合いを行ったときに、市長メッセージにある内容について強く要請しております。

340○吉村善明議長 神山議員。

341○7番 神山聡議員 じゃあ、整理すると、4月末に5路線の再編案、廃止案があることを事務局は把握して、5月に副市長と奈良交通に現状維持を強く申入れをしたということですね。その後、9月に具体的な再編案が分かったので10月と11月に奈良交通に具体的な要請をしたという流れですね。1回目の協議会、6月、議事録を読むと、現状維持の協議が記載されておらず、報告してすぐに再編案へと話が進んでいる議事録になっています。市や協議会の立場は何としても現状維持を求めるべき立場ですから、1回目の協議会では再編の話の前に現状維持について多くの議論が交わされるべきです。この協議会の進め方についてどのように考えておられますか。

342○吉村善明議長 米田部長。

343○米田尚起建設部長 市としては再編案を受け入れているものでもなく、また進めているものではありません。申入れを受け、現状維持ができないか、奈良交通との話し合いを行いました。市としては、何とか利用者の影響が少なくできる減便案で経費削減できないか、また性急な判断をすることなく、慎重に判断するため時期を延期してほしいとの協議を要請してきたということです。

344○吉村善明議長 神山議員。

345○7番 神山聡議員 市長や事務局が私と同じように現状維持を強く求めている、それを奈良交通に伝えていただいているということは理解しているんですけども、協議会として現状維持の条件の洗い出しや委員に多様性のある提案を求め、検討するなど、現状維持のためにできる限りの協議を、検討をやり尽くすのが第1段階であるべきだと思います。他に疑問に思うところは、自治会役員へ報告するタイミングでなぜアンケート調査を行わなかったのか。アンケートは廃止案や再編案の対象となる地域住民の実態を知り、利用者のニーズを把握してバス路線の在り方を考えるために行っているはずですが。移動というニーズに、安全で快適な輸送サービスを提供することがバス事業者の役割ですから、アンケートは奈良交通が実施して利用者のニーズを反映した再編案であるべきです。そうでなければ、ただ赤字路線を改善するだけを目的にした再編案になってしまいます。事業者が利用者からのニーズを把握した上で再編案を考えることが重要であると私は考えますが、この点について市の見解はいかがでしょうか。

346○吉村善明議長 米田部長。

347○米田尚起建設部長 ご指摘のとおり、利用者ニーズを踏まえた提案をしていただきたいと、市としても考えております。

348○吉村善明議長 神山議員。

349○7番 神山聡議員 そうですね、市民の立場に立って考えれば、この順序は非常に重要だと私は思います。協議会で現状維持の協議をやり尽くし、その間にアンケート調査を奈良交通が実施、市民ニーズを踏まえて現状維持や再編の可能性を検討する、こういう流れにすると利用者の考えを常に踏まえた協議会が進められます。市民の意見が議論の外に置かれるということがなくなります。今の進め方はいまだに対象地域のニーズも把握できず、ニーズの反映のない再編案が出て、2回も協議が終わってしまって、奈良交通に要請までしている。アンケート結果の集計の前です。路線バ

スの現状を考えると、今後も同じような課題が出てくる可能性がありますので、今後はアンケートのタイミングや協議の進め方を見直すべきだと考えますが、いかがでしょうか。

350○吉村善明議長 米田部長。

351○米田尚起建設部長 アンケート調査の実施やその時期については、今後においても事業者と連携を取りながら進めてまいりたいと考えております。

352○吉村善明議長 神山議員。

353○7番 神山聡議員 よろしくお願ひします。それから、アンケートの調査の文章の方ですけれども、アンケートでは、路線を変更しますと書かれていたり、路線が新たに運行しますとか、路線廃止などアンケート結果を踏まえて協議会で検討するはずが、まるで決定事項のような文章になっています。この文章は市民が不安になった大きな原因になっていると思います。不安をあおるような言い回しについて、もっと市民の立場に立って文章の構成を考えるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

354○吉村善明議長 米田部長。

355○米田尚起建設部長 今回そのアンケートのご指摘の文章は奈良交通からの提案内容を記載したものでしたが、市民にうまく伝わらず、情報が錯綜したと考えております。

356○吉村善明議長 神山議員。

357○7番 神山聡議員 不確定なことを決定しているような表現というのは、情報の錯綜になりますので、配慮を持っていただきたいと思います。それから、地域公共交通計画を策定して僅か1年で廃止案や再編案が出ていること、奈良交通からは計画策定時にこのような話は何もなかったということでしたが、計画策定時に課題として挙げていただければ、計画の中に落とし込んで見直しまでの5年で課題解決に向けた取組を実施できたと思うんですね。協議会委員として参加していただきながら、行政と奈良交通の連携がきちんとしていていない印象を受けるんですけれども、この点は生駒市はどのように受け止めておられますか。

358○吉村善明議長 米田部長。

359○米田尚起建設部長 奈良交通としても、コロナ禍において、令和2年度決算で約19億円の当期純損益を計上するなど、急激な危機的状況を受けたと聞いております。また、コロナ禍が長引いたことから、路線バス再編の方向性が出てきたのではないかと推測しております。

360○吉村善明議長 山本副市長。

361○山本昇副市長 今回の回答の中で申しましたのは、一応今年度こういう話は聞いたんですけども、計画策定時においてはそういったようなことは聞いておりませんので、だから聞いておってこういう再編計画案が当時から出ておればいろんな話ができたとと思うんですけど、例年正月に社長さん、会長さんの年頭のご挨拶、来られるんですけど、そういったときには非常に苦しい状況やという話は聞いておりましたけれども、それ以外は具体的なことを聞いておりませんでした。

362○吉村善明議長 神山議員。

363○7番 神山聡議員 分かりました。ただ、本市の第6次生駒市総合計画の方に持続可能で誰もが円滑に移動でき、機能的で利便性が高い公共交通の施策が進んでいるまちを実現することを市の最上位計画に掲げて5年間の取組として公共交通の充実、維持について関係機関に要請しますとあるんですね。この要請をしっかりとしていれば、奈良交通から赤字路線の情報が得られて

いたのではないかと考えるんですけども、この第6次総合計画の実現のためにこの4年間で関係機関にどのような要請をして、どのような効果が得られたのか教えていただけますか。

364○吉村善明議長 米田部長。

365○米田尚起建設部長 先ほどの答弁でもお答えしましたが、交通事業者や国も県も委員として参加していただいております。ただ、生駒市公共交通活性化協議会において公共交通の維持等について要請していますし、国や県に対して直接要望する機会がある場合は直接働きかけていきます。また、効果についてはコロナ禍の状況下により評価できておりませんので、これからよろしく願いいたします。

366○吉村善明議長 神山議員。

367○7番 神山聡議員 この点、奈良交通は協議会委員という立ち位置からも正確な情報を早く提供していただかないと、本市の計画に支障を来してしまうんですね。2025年に中間見直しもやるわけなので、奈良交通との情報連携もこれも課題の一つとして計画を進めていただきたいと思います。あと、12月1日に開催された奈良県の地域交通改善協議会で富雄庄田線及び高の原高山線について協議していると思います。会議でどのような話があったのか教えていただけますでしょうか。

368○吉村善明議長 米田部長。

369○米田尚起建設部長 つい先日の12月1日の会議では、奈良県を始め、奈良市、交通事業者また今回高の原高山線の主な利用者であります奈良先端科学技術大学院大学が参加し、両路線の経緯や現状、今後の取組等について議論いたしました。富雄庄田線については、市と奈良交通との協議内容、再編時期等、延期等について、また高の原高山線については経費削減に向け、関係者間で協議することとなりました。以上です。

370○吉村善明議長 神山議員。

371○7番 神山聡議員 分かりました。今後も関係者間で協議を進めている段階ということですね。

次に、本市の路線バスの利用促進について、どのような方法で利用者を増やそうとしてきたのか教えていただけますでしょうか。

372○吉村善明議長 米田部長。

373○米田尚起建設部長 直接的には事業者であります奈良交通により利用促進がなされてきておりまして、市としては広報紙やホームページで公共交通の大切さや利用を呼びかけております。

374○吉村善明議長 神山議員。

375○7番 神山聡議員 市のホームページを開いても、利用促進のページを見つけるというのはちょっと難しいんです、なかなか見つからなくて。現状ではホームページで路線バスの利用促進につながる広報はできていないと思うんですけども、例えば市の便利なアプリ紹介で奈良交通の奈良バスなびを紹介するとか、生駒市の移動手段のページを作成してトップページにリンクを貼るとか、公共交通の利用促進につながる具体的な工夫を考えていただきたいんですが、いかがでしょうか。

376○吉村善明議長 米田部長。

377○米田尚起建設部長 おっしゃるとおり、公共交通の利用促進につながる工夫というものを調査・検討していきたいと考えます。

378○吉村善明議長 神山議員。

379○7番 神山聡議員 ありがとうございます。是非よろしくお願いします。あと、生駒市の地域公共交通を守るためのアピール文というのがこの公共交通で検索すると出てくるんですけども、これは誰がどこで活用をしているものでしょうか。

380○吉村善明議長 米田部長。

381○米田尚起建設部長 このアピール文ですけども、これは市民の皆様に対して公共交通の大切さを理解いただき、積極的な利用をお願いしているものですので、見やすく工夫していきたいと考えております。

382○吉村善明議長 神山議員。

383○7番 神山聡議員 今は見た人が勝手に印刷して勝手に使ってねという状態だと思うんですね。各自治会で配布してもらおうとか、イベントや行事で配布するとか、公共施設で配布するとか、もっと積極的にこのアピール文を活用していただきたいと思います。それから、今回奈良交通から協議の対象とされた赤字路線について、市は奈良交通からの協議の申入れがある前から利用者が少ない路線だということを認識していたんでしょうか。

384○吉村善明議長 米田部長。

385○米田尚起建設部長 社会構造の変化による通勤通学利用者の減少や、コロナ禍においてどの路線も利用者が少ないとの認識でありまして、特に5路線ということではありません。

386○吉村善明議長 神山議員。

387○7番 神山聡議員 そうだとするならば、計画の策定時、利用数の少ないバス路線について、市は把握して利用の促進を強化する必要があったのではないかと思うんですが、その点はどのように分析されておられますか。

388○吉村善明議長 米田部長。

389○米田尚起建設部長 現在も広報やホームページによる公共交通の大切さを訴え、利用をお願いしております。また、富雄庄田線においては県、奈良交通、そして奈良市と一緒に乗り込み調査を行い、利用実態や利用者の声を利用促進につなげるようなことも検討しておりましたが、コロナ禍において中止になった経緯がございます。

390○吉村善明議長 神山議員。

391○7番 神山聡議員 ある程度の動きはしようとして、コロナの影響があって実施できなかったということですね。利用促進の取組を結果につなげようとするならば、その取組の検証をするということが重要になってくるんですが、利用促進策に対して効果の検証というのはやっているんでしょうか。

392○吉村善明議長 米田部長。

393○米田尚起建設部長 市で行っている利用促進策については、現時点では呼びかけにとどまっているため、効果の検証までは行われておりません。

394○吉村善明議長 神山議員。

395○7番 神山聡議員 そこはやはり費用対効果として、やったことに対して検証して、何がよかったのか、悪かったのか、次にどう生かすのかということがセットになってないと、利用促進策の有効性が分からないんですね。分からないことを続けても課題は解決せず、具体性のない取組からは目的に

対する効率も上げられず、結果として計画の目標に届かないということになってしまいます。この点どのような評価分析を基にして利用促進の取組を進めていくのか、利用促進からの効果をどの程度まで上げていこうと考えているのか、お答えいただけますか。

396○吉村善明議長 米田部長。

397○米田尚起建設部長 最終目標としましては、奈良交通が持続可能な運行ができることだと考えております。

398○吉村善明議長 神山議員。

399○7番 神山聡議員 先日11月30日、奈良交通と話をする機会をいただきました。私から何とか現状維持をお願いしたいという旨も伝えました。特に富雄庄田線については、公共の移動手段が完全になくなってしまいます。毎日100人もの利用があるのに、日常生活をまともに送ることができなくなる。何とか考え直してほしいということを伝えましたけれども、そこでも収支均衡という話がやっぱり答えとしてありました。ただ、この収支均衡というのは生駒市内の路線バス全体で赤字路線を黒字路線で穴埋めできればそれでもよいという回答でした。一方で、そのための取組を奈良交通が積極的に行っているのかといえば、定期券のウェブ販売や利便性の向上という取組程度というのが現状でした。奈良県の調査では、端末交通分担率で路線バス利用率は生駒駅が18%、東生駒駅が22%との調査結果があります。つまり、バス以外の交通手段を利用している80%に対して収支均衡に向けて路線バスの需要を掘り起こすことがまだまだ可能であるのではないかと考えるんですが、市の見解はいかがでしょうか。

400○吉村善明議長 米田部長。

401○米田尚起建設部長 確かに、議員おっしゃるとおり、その数字を見れば可能だと思いますので、今後も転換できるように努力したいと思います。

402○吉村善明議長 神山議員。

403○7番 神山聡議員 是非お願いしたいと思います。赤字路線を黒字へと転換するということは難しいんですけども、黒字路線の黒字幅を伸ばすことも併せて考えれば様々な取組が考えられます。例えば、1日バス乗り放題券を市内のイベントと連携して販売すれば、経済的な活性化と併せ、乗らず嫌いと言われるふだん路線バスを利用することがない人たちも路線バスに乗ることで利便性を発見し、新しい利用者へと転換となるような取組が考えられますけれども、利用促進策として取り入れてはいかがでしょうか。

404○吉村善明議長 米田部長。

405○米田尚起建設部長 事務局としましても、様々な利用促進策の検討を始めております。ですから、効果的な策があれば、今後も取り入れていきたいと考えておる次第でございます。

406○吉村善明議長 神山議員。

407○7番 神山聡議員 ありがとうございます。利用促進には市の広報が欠かせないんですけども、市民に同じ広報をするのではなくて、地域の特性や住んでいる年齢層に必要な情報を発信することが大切だと思います。民生委員や自治会、学校にも協力していただいて、高齢者が多い地域には買物や病院へのルートや料金の案内、時刻表などの情報、子どもが多い地域は通学定期券の補助や、塾の時間帯の時刻表やルートの詳細など、ターゲットを絞り利用者が欲しい情報を発信す



ることで利用の動機づけになると思います。人の行動変容を促すには具体的にその人に合致する情報が必要です。結果を出すための広報として、今よりももう一步市民の立場に踏み込んで進化した広報を考えていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

408○吉村善明議長 米田部長。

409○米田尚起建設部長 私どももその地域性を踏まえた利用促進は非常に重要だと認識しております。今後もそのような手法も有効な手段の一つであろうと思われまますので、調査していきたいと思ひます。

410○吉村善明議長 神山議員。

411○7番 神山聡議員 是非よろしくお願ひします。あと路線バスの利用促進の観点から、学校への登下校で利用してもらうという考え方でお聞きたいたいんですけれども、現在本市では通学定期券の補助を出しています。通学定期券の補助制度について教えていただけますでしょうか。

412○吉村善明議長 奥田教育こども部長。

413○奥田吉伸教育こども部長 今のお尋ねでございます。まず義務教育の小学校等の施設費の国庫負担に関する法律、こういったものがござひます。ここには適正な学校規模の条件といたしまして、小学校はおおむね約4キロ、こちらの方が指定をされております。そういったことから、本市におきましては生駒市遠距離通学児童通学費補助金というものを設置いたしてあります。この補助金の内容でございますけれども、まず遠距離通学児童の保護者の負担軽減を図ること、そして義務教育の円滑な運営に資するため、遠距離通学をしていただひている児童の保護者に対してこの補助金を交付するものとしてあります。この補助のまず対象でございますけれども、高山町の傍示、狭戸以北の地区、そして北田原のイモ山地区、もう一つが北田原町の大角地区というこの三つの地区を指定いたしてあります。要は片道4キロ以上のバスの利用者ということでござひます。補助金といたしましては、1学期当たり5,200円を上限に補助をいたしてるところでございます。

414○吉村善明議長 神山議員。

415○7番 神山聡議員 分かりました。神戸市、鳥取市、倉吉市などが高校生の通学定期券の補助を行っているんですね。高校生の通学手段、車による送迎が多いんです。路線バスの需要の掘り起こしになる上に、子育て世代の経済的負担の軽減を図ることで子育て支援にもつながります。また、奈良交通から令和5年3月、シーカプラスという新たな定期券の販売を始めるに当たって、生駒市に対して企業定期券や通学定期券の支援策を要請してきていると思うんです。本市においても子育て支援と公共交通の維持確保につながる施策として、現状の通学定期券の補助の拡充について導入していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

416○吉村善明議長 奥田部長。

417○奥田吉伸教育こども部長 今ご紹介いただきました神戸市と倉吉市、そういった制度を活用されていることは存じ上げてあります。まず、例えば高校生の補助というところに焦点を当ててみますと、今現在生駒市ではいたしておらない状況でございます。まず、議員おっしゃっているように、子育て支援、それから公共交通の維持、確保、こういった点から申しますと、こういった制度というものが非常に有効ではあるかもしれないというふうには私どもも考えておるところでございます。ただし、この条件というのは路線バスがあるというのが大前提だと思ひてあります。こういったものの活用という部分で

はそういった施策を打っていくというのは有効であると。ただ、今回のお話の中では再編をされるか、廃止をされるかというところでございます。まずこういったところを焦点に当てながらということであれば、経済的な負担、こういったものをどういうふうに軽減していくか、まずそういったところを考えていかなければならないという観点では市全体的なお話になってくるかと私は思っております。ですので、教育委員会だけがこういったことを考えていくんじゃなくて、やはり市民の足をどう捉えていくかというところでございますので、そこに小学校、中学校、そして高校生、こういった学生さんの足をどう確保するかというところが論点になろうかと思っております。

418○吉村善明議長 神山議員。

419○7番 神山聡議員 すぐにやりますという答えにはならないと思うんですけど、いろんな施策につながる取組だと思うので、前向きにご検討いただきたいと思います。その他の利用促進策、ちょっとご案内しておきますね。長距離利用者の割引制度を京丹後市や盛岡市が導入しています。移動距離が長い地域はバスの運賃が高く、利用の減少や運賃の値上げにつながっている。バス運賃の上限を、例えば300円とし、それ以上の運賃を市が補助することで路線バスの利用者数が増加していると言えます。これ以外にも生駒市内のイベントや行事で集客数が見込める場合はバスの増便が可能であると奈良交通から回答をいただいています。集客数と移動手段を整理すれば、利用促進につながると思います。また、路線バスを利用した最寄りバス停からの食べ歩きマップの作成とか、路線バスを活用したスタンプラリー、それからバス車内への作品展示、学校でのバスふれあい体験、ノーマイカーデー、路線バス利用促進月間、様々な取組が幾らでも考えられると思うんですね。柔軟な発想で取組を進めていただきたいと思います。それから、富雄庄田線について生駒北スポーツセンターの利用者にも影響が及ぶと思うんですが、この点についてどのような見解をお持ちなんでしょうか。

420○吉村善明議長 八重生涯学習部長。

421○八重史子生涯学習部長 生駒北スポーツセンターにつきましては、特に利用者の多い土曜日、日曜日、祝日なんかは傍示から生駒北スポーツセンターまで延伸して運行していただいておりますので、一定のバスの利用者もおられますことから、やはりなくなるということは影響が大きいと考えております。

422○吉村善明議長 神山議員。

423○7番 神山聡議員 北スポーツセンターの利用者はもちろんですけども、指定管理者にも影響及ぶということで、公共交通を利用したスポーツイベントを展開するとか、指定管理者からバスの利用を呼びかけるという協力は要請をお願いしたいと思います。あと、庁内においても利用促進へつながる横の連携がきつとあると思いますので、他の部署への働きかけもお願いしたいと思います。あと、代替え案について確認しておきたいんですけども、現在奈良交通に現状維持を交渉しているところで、路線が維持できるようにしなければなりません。もし仮に廃止案、再編案が進んで富雄庄田線の路線が廃止になった場合、住民の日常生活を支える移動手段がない状況をいつきも放置するべきではないと思います。その場合はすぐにコミバスを走らせていただきたいと思うんですけども、この点は市も同じような見解をお持ちでしょうか。

424○吉村善明議長 小紫市長。

425○小紫雅史市長 この点につきましては、もちろん公共交通の空白地というのをなくしていかな

きやいけないというのは当然のことであるんですけども、そもそもこの富雄庄田線自体を今奈良交通は廃止提案をしていますが、そうならないようにしっかりとまず交渉していくことが第一前提だというふうに思います。仮の質問にあまり答えにくいんですけども、まずはその廃止にならないように全力を尽くすということをしつかりと考えていくことで、代替、その場合はたけまる号とかいう話をする、またこれは交渉に影響を及ぼすようなこともあったりするわけです。すごくあんばい難しいんですけど、なのでまずはこれを廃止させないという前提でしっかりと交渉していくということだと思います。ちょっとお答えしない方がいいのかもしれませんが、あえて言うと、そういう廃止ということにどうしてもならざるを得ないということになったときは、たけまる号なのか、他のやり方がいいのか、それは公共交通のいろんな計画の中でもいろんな公共交通の在り方という、オプションと言うか選択肢ありますので、この地域にどういう形のもの方がいいのか、そのときに、じゃあ奈良交通は何もせんでいいのかとか、奈良交通にも何かのご負担をいただくのかとか、我々がどう負担するのか、そしてまた先ほど来からありましたように、地域の方にもどう乗っていただくような自治会等のお力添えもいただきながら、我々もどんなキャンペーンをするのかというのを全部組合せて対応していくということで、万が一なくなったときは、当然そういう議論は速やかにやっていかなきゃいけないと思うんですが、現時点であまりその具体的な話をし過ぎると、何か廃止しても大丈夫感が出てきてしまうのも嫌なので、まずは廃止をしないということできつかりと交渉していくということをご理解ください。おっしゃっている趣旨はよく分かっています。

426○吉村善明議長 神山議員。

427○7番 神山聡議員 そうですね、おっしゃるとおりで、その話をあんまり進めるべきではないと思います。あと、国の交通政策審議会でも赤字が続く公共交通を維持するために補助金を支給する新制度、この件が解決に結びつくところが一番望むところです。ただ、生駒市として交通事業者へ支援や協力をしてきていただいて今後も続けていくということを明確にさせていただいて、市長が現状維持を強く要請していることで、奈良交通がバス路線を性急に再編、廃止へとかじを取っていくことがないものとは思いますが。今後奈良交通との交渉に当たっては、学研高山地区第2工区マスタープランも策定され、関係機関との会議が進んでいること、学研北生駒駅中心地区まちづくり構想が進んでいること、奈良交通にとってこれらは悪いニュースばかりではなくて明るい展望もあるというわけで、特に今回の5路線は影響を大きく受ける地域であると思いますので、この点、奈良交通には考慮していただいて交渉を進めていただきたいと思います。

最後に市長にお聞きしたいんですけども、今回私なりに生駒市の路線バスの置かれた状況を調査して、具体的な利用促進策とか広報手段などいろいろとちょっと提案をさせていただきました。今、生駒駅、東生駒駅のバスの利用率20%ほど、黒字路線も含めた収支均衡が可能だという点を考えると、柔軟な発想でバスの利用促進策を打ち出すと、バスの利用者数を増やしていくことが可能だと私は考えるんですけども、何としてもバス路線の廃止をすることなく、市民の移動手段を守っていただきたいと思うんですけども、今回の様々な提案を踏まえて、市長のお考えを最後にお聞かせいただけますか。

428○吉村善明議長 小紫市長。

429○小紫雅史市長 大変具体的なご提案をいろいろいただいたというふうに思います。ただ、一つ思うのは本当にそのバスに乗ることが、大変恐縮ながら、私もバスにほとんど乗らないので、実際

にバス利用されている方もいらっしゃるかもしれないんですけども、何か今まで乗ってなかったもの、じゃあバスも何か乗ってみようかというふう意識を変えて実際に乗ってもらうということをするのは、多分そんなに簡単なことじゃないというふうに思っていますが、ただ、じゃあ何もしないというわけにはもちろんいかないし、今本当に全国の事例をいろいろ神山議員には調べていただいて、具体的な形でご提案いただきました。ちょっとその例えば実施にかかるコストだとか、そもそもそれって奈良交通がやらなきゃいけないじゃないのみたいな話もあるし、でも、とは言え奈良交通が本気でやると言うんだったら僕らもしっかり協力しますよとか、地域の方にご協力もお願いをして、そのときはまたいろいろ議員にも地域の方にもお力をいただきたいところもあるんですけども、いただいたご提案をまた改めて、今は奈良交通との調整というところにはほぼ非常に力を入れて時間を割いておりますけれども、実際にある程度その辺りの調整がめどがついてきたときには、少し中期的に見たときに、とは言え5年後、10年後に結局同じような展開になってしまっは元も子もありませんので、利用の底上げを図っていくということを考えていかなきゃいけないときに、今回いただいた様々な利用促進策というものは一つ一つ検討し、またそれ以外の取組も我々も考えて奈良交通とともに、地域とともにやっていきたいというふうに思います。議員ご指摘いただいたように、奈良交通さんは生駒市内全体で帳尻をみたいなお話があったかもしれませんが、もっと言えば、北和地域でインバウンドなんかが増えてくれば、ある程度その辺の黒字が北和地域の収支を見るので、何とか路線を維持できるという考え方に元々奈良交通は立っておられたはずで。そういう意味では、先ほど正におっしゃっていただいたように、高山第2工区、学研北生駒、あとまだこれからなんですけど、生駒市の観光の取組なんか非常に力を入れております。そして非常に小さな話かもしれないけど、いろんな各地域のイベントとか集まりみたいなものも生駒市、大分できてきていますので、鹿ノ台なんかはそういうイベントとか地域の集まりなんかにちょっとバス使っていこうかみたいな話なんかもしていただいたりと、きめ細やかな情報提供とか、あと行く場所、何か出かけようかと思わせるような場所、機会、イベント、そんなものと全部組み合わせてしっかりとこのバス路線、守っていかないといけない。本当にほっといて当たり前のように公共交通があるという時代は多分もう終わっているんだと思いますので、前の梶井議員のときにも申しあげましたように、事業者さん、あと我々行政、そして市民利用者の方の三位一体でそれぞれが少しずつ汗をかくことで、何とかこれから先も公共交通しっかりと生駒市において維持ができるように観光とか地域の取組も組み合わせて考えていきたいというふうに思います。いろいろ貴重なご提案をありがとうございます。

430○吉村善明議長 神山議員。

431○7番 神山聡議員 ありがとうございます。奈良交通さんもコロナの関係でいつか伸びたインバウンドの利用者数が減ったということもおっしゃってましたので、コロナの終息を願うばかりなんですけども、今回一般質問をさせていただいて感じたことは、市内バス路線維持、確保のためにまだまだできることがあるというふうに感じました。交通事業者との情報連携、課題があるということ、それからターゲットを絞った広報が必要であること、総合計画の答弁からはまだ十分と言える取組ができていないということもあります。市内路線バス全体の利用率は伸びしろがあって柔軟な取組で利用率を上げることが可能だというようなことなど、これらは結局のところ、路線バスが走っているということが当たり前だと甘えて考えているところがあったと思います。これらは利用者が減れば目の前から当たり前がなくなるという自覚を持って、路線バスの周知に努め、柔軟な利用促進策に早急に取り組んで、市民

と事業者と行政が自分たちの路線バスを守っていくという意識の醸成が本当に重要だと思います。その本気度の高さが結果的に路線バスの維持、確保につながっていきます。

最後に、富雄庄田線の廃止案のアンケート調査を受けた高山の方の声をご紹介したいと思います。先祖から生駒市に住んできて、これまではまちがよくなるようにと願い、長い間きっちり税金を納めてきました。その税金で生駒市をどんなに住みやすいまちにしてくれるのかと期待していたら、年寄りの生活に欠かせない移動手段まで取り上げられてしまうようなまちになってしまいそうだ。免許証の返納をすれば、この先どうやって暮らしていったらいいのか、生駒市に住み続けて今は不安しかない。こういう今回のバス路線の廃止案に対して悲痛な思いを持っている市民がいらっしゃいました。この悲しい声が現実にならないように、富雄庄田線を始めとするバス路線の廃止は絶対に阻止するために我々議員も行政もできる限りの努力をしていかなければなりません。人口が少なくなる、高齢化だから仕方ないというような安直な答えを持つことなく、生駒市の公共交通が今以上に便利になるように最大限の努力を続けていただけるように要望いたしまして、私の一般質問を終わります。